

マラリアについて

ドイツ語: Malaria、英語: malaria。

語源は「悪い空気」を意味する古いイタリア語: mala aria)。



熱帯から亜熱帯に広く分布するマラリア原虫による感染症である。雌のハマダラカが媒介するマラリア原虫が病原体であり、原虫の違いにより5種類に大別される（熱帯熱マラリア、三日熱マラリア、四日熱マラリア、卵形マラリア、サルマラリア）^[4]蚊に刺されてマラリア原虫が体内に入ると、潜伏期間（1週間～4週間程度）を経て、発熱や悪寒（寒気）、頭痛、関節や筋肉の痛み、関節痛、筋肉痛、嘔吐、下痢といった症状が現れ、脳や内臓に合併症を引き起こすこともある。

マラリアを発症すると、40度近くの激しい高熱に襲われるが、比較的短時間で熱は下がる。しかし、三日熱マラリアの場合48時間おきに、四日熱マラリアの場合72時間おきに、繰り返し激しい高熱に襲われることになる。

全世界ではマラリアに年間2.16億人が感染し、うち44.5万人が死亡している（2016年）^[5]。

近代以前の日本でもしばしば発生しており、古典などで出てくる瘧（おこり）とは、大抵このマラリアを指していた。

大東亜戦争（太平洋戦争）では南方のジャングルに長期滞在する兵士が多かったため、マラリア患者が続出した。日本軍は治療薬キニーネの支給を行っていたものの、ガダルカナル島の戦いでは1万5000人、インパール作戦では4万人、沖縄戦では石垣島の住民ほぼ全員が罹患して^[36]3,600人、ルソン島の戦いでは5万人以上がマラリアによって死亡した。

Wikipedia より抜粋